

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 1 章 番外編 パート 2
黙示は交わりの中で示される

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りよくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238

Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

彼らは聖書の預言をととても詳しく知っていたのです。彼らは聖書のミカ書に、メシアがベツレヘムで生まれると書いてあることを知っていました。メシアが生まれる時期が、ダニエル書 9 章に書かれていることを知っていました。メシアが奇跡によって、若い処女から生まれるというイザヤ書の預言を知っていました。同じイザヤ書の預言によって、まさに幼いイエスがエジプトから連れ戻されたように、メシアもエジプトに行き、そこからイスラエルに戻されて来ることも知っていたのです。彼らは聖書を知っていたのですよ。彼らは、平日のバイブル・スタディーにも参加するような人たちで、牧師や長老、博士たちであり、又、熱心にメモを取るような人たちでした。

そうです。あなたや私も彼らのようになる可能性があるのです。私達も御言葉を知っているから。

しかし、彼らは、神と個人的に対面するために、エルサレムからベツレヘムまでのたった

8 kmの道を行こうとしない。びっくりです。が、私たちも同じように、弱さを持っていることに気付かされます。

私たちも、黙示録を学問として学ぶことができます。これは何を象徴しているかとか、それらが現在の状況にどう当てはまるかを述べることもできます。聖書のどの書でも、神学的に学ぶことはできるのです。

但し、注意しなければ、真に大切なことを見逃してしまう。それは、主が求めておられる事、即ち、あなたや私一人ひとりを日々黙示へ導くことです。そのためにイエスは何度も何度もご自身を現されるのです。

つまり、もし私たちがパトモス島でのヨハネのように行動するなら、クリスチャンとしての経験は、何よりもワクワクする旅路だということです。

ヨハネは、背後から何かが聞こえた時、「ああ、聖書なら知ってるよ、俺が書いたんだから。」「ヨハネの福音書にヨハネの手紙の第一・第二・第三。俺が執筆したんだ。もう、これで十分だろ?」と考えることもできました。「わかってる、わかってる」と。でも、彼は振り向いて、「自分が今聞いているのは何なんだ!?!」と、その意味を知ろうとしたのです。「だけど、それはヨハネだからであって、私にどう当てはめられるのか?」と言いたいのですか?

私は、主の日に御霊に感じ、私のうしろにラッパの音のような大きな音を聞いた。

(黙示録 1:10)

ヨハネは主の日に御霊に感じた。

今日は何の日ですか? 今日(日曜日)は“主の日”です。

この日、私たちは時間を他と分け、主と共に過ごし、御霊に感じます。しかし、みんながみんなそうではありません。このような集会では、幾人かはまさに今、主の日に、本当に御霊に感じ、また、御霊に感じることを選んで言うのです。「どうしてこの曲が歌われているんだろう?」「主よ、何を伝えようとされているのですか?」或いは通路の向こう側を歩く人たちを見て、「主はあの人たちに手を差し伸べよとおっしゃっているのですね。」

あなたがたは喜びながら救いの泉から水を汲む。(イザヤ書 12:3)

「主よ、今日、救いの泉から水を汲めとおっしゃるのですね。」「主よ、これはどういう意味ですか?」

また、集まってみんなで賛美する時に、ただ口先だけではなく、心を込めて、気持ちを入れて歌う時、私たちは御霊に感じるのです。

今、こうしている最中でも、幾人かは「主よ、どうすればあなたの黙示を受け取ることができますか？」と言っています。

だが、他の幾人かはそうではない。御霊に感じないのです。

いびきをかいて、ぼんやりしている。事実です。ここからよく見えるんですよ。

ある人は「彼女、僕のことをどう思っているんだろう…」また、別の人は「ああ、試合が始まる！ジョン先生、早くしてよ。祈ってるから！」

今この時、色んなことが起こっていて、様々な思いが飛び交っています。

でも、この中の大半、多くの人たちが御霊に感じています。それで、真剣に自分自身を重ね合わせて、「どうして私は今日ここにいるんだろう？」「主よ、私にどんな計画をお持ちですか？」「私に何を伝えようとしておられるのですか？」「トランペットの音が聞こえます。これはどういうことですか？」

そして、振り向いて言うのです。「主よ、私個人にどんなメッセージがありますか？」

これが、主の日に御霊を感じる人たちです。彼らは振り向き、見て、新しい黙示を受け取る。主から新しい指針を受け取り、具体的な導きを得るのです。これは、ただ“主の日だけ”ではありません。“いつも”です。

出エジプト記 3 章には面白い記事が書かれています。

モーセは、ミデヤンの祭司で彼のしゅうと、イテロの羊を飼っていた。彼はその群れを荒野の西側に追って行き、神の山ホレブにやって来た。(出エジプト記 3:1)

すると主の使いが彼に、現われた。柴の中の火の炎の中であつた。よく見ると、火で燃えていたのに柴は焼け尽きなかった。(出エジプト記 3:2)

モーセは言った。「なぜ柴が燃えていかないのか、あちらへ行ってこの大いなる光景を見ることにしよう。」(出エジプト記 3:3)

4 節はアンダーラインを引いておくと良いでしょう。

主は彼が横切って見に来るのをご覧になった。(出エジプト記 3:4a)

黙示録 1 章でヨハネが振り向いて見たのと同じように、モーセが横切って見に来たのを主がご覧になった時、

主は彼が横切って見に来るのをご覧になった。神は柴の中から彼を呼び、「モーセ、モーセ。」と仰せられた。彼は「はい。ここにおります。」と答えた。(出エジプト記 3:4)

神は仰せられた。「ここに近づいてはいけない。あなたの足のくつを脱げ。あなたの立っている場所は、聖なる地である。」(出エジプト記 3:5)

また仰せられた。「わたしは、あなたの父の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」モーセは神を仰ぎ見ることを恐れて、顔を隠した。(出エジプト記 3:6)

そして、神はモーセに言うのです。

「今、行け。わたしはあなたをパロのもとに遣わそう。わたしの民イスラエル人をエジプトから連れ出せ。」(出エジプト記 3:10)

昨日この話を読んだ時、出エジプト記 3 章と黙示録 1 章は類似していて、モーセとヨハネ、どちらも黙示を受けていることに感動しました。

黙示録 1 章では荒涼とした島にヨハネがいて、出エジプト記 3 章では砂漠地帯にモーセがいる。年老いたヨハネは 100 歳近く、歳を重ねたモーセは 80 歳。アジア地方の教会の牧師として御父の羊の世話をしていたヨハネと、義父イテロの羊を飼っていたモーセ。彼らには共通点がたくさんあります。

ここで、みなさんに注目してほしいのは、ヨハネとモーセの共通した行動です。

その日、ヨハネがトランペットの音を聞いた時、彼は、主が何を語ろうとされているのかを知ろうと振り向きましました。

モーセは柴の中の燃える炎を見た時、よく調べようと横切って見に行きました。それを主はご覧になり(出エジプト記 3:3-4)、彼に語りかけ、詳細を伝えて、彼を使者として任命したのです。その後は記されている通りです。

出エジプト記 3 章で、モーセはこう言うこともできました。「燃えている柴を見ている時間はないんだよ。」「予定が詰まってて、家畜に水をやらなきゃいけないし、他にもやることがいっぱいあるんだ。」「俺はプロの羊飼いなんだ。」等々。

でも彼は“近づいて、どうなっているのか調べてみよう”としました。これが、主が求めておられる態度です。

主は、旧約聖書のモーセにも、新約聖書のパトモス島のヨハネにも、そして、あなたにも私にも黙示を、あなたへの指針、私への指針を与えたいと思っておられるのです。

“私たちには聖書があるから、わざわざ行って見る必要はない。”

これは、非常に危険な考えです。

「つまり、主は、燃える柴の中から語られると言うのですか？」

主は、昨日、燃える木の中から私に語られました。近所の見事な木々の中を散歩していた

時です。みなさんも昨日見たでしょう？眩しいオレンジと鮮やかな赤い色。あれはきれいでした。そこで私は立ち止まって、木の根元で「主よ、何を伝えようとされているのですか？」と聞いたのです。すると主は、私の今の状況や対処すべきことなど、とても個人的な事柄を語り始めました。あれは、まさに主でした。

「ジョン先生、主が木の紅葉の中から語るなんて、本気で思っているのですか？」「残念な人だ…」とでも言いたいでしょうか？同情ならいりません。

もし、主があなたに語りかけないとしたら、もしくは、あなたが物事について知ろうとしていないなら、私の方こそ心から同情します。もし、あなたが燃える木の黙示について知らないとしたら、本当に心が痛みます。

昨夜、私は疲れ果てて、もうくたくたでした。そこへ、息子のベンジャミンがやって来ました。彼には私と分かち合いたいことがあり、私はひどく疲れていたのですが、彼に伝えていました。そうしたら、主は私に語り始め、心の中の私自身の考えを正されたのです。主は、私が疲れ切っている時に、3年生のベンジャミンを通して語って下さいました。それは、私が、主の恵みによって、この機会を捉えて振り向き、「主よ、私に何を伝えようとされているのですか？」と問いかけたからです。

主はあなたを導こうとされているのです。夢を通して、3年生の子供を通して、木の紅葉を通して、幻を通して、日曜日の御言葉や預言を通して。クリスチャンとしてのあなたの歩みを、ワクワクするものにしたいのです。

今の時代、私たちにとって危険なのは、当時エルサレムで彼らが言ったのと同じセリフを口にすること・・・「私たちは聖書を知っている！」

勿論、それはとても大切なことで、聖書を知るべきであることに疑いの余地はありません。私たちは常に、聖書を思いの中に入れるべきであり、聖書が思考の基礎になるべきです。しかし、それだけではなく、新しい契約として心も正しくあれとエレミヤ書 31章に書かれています。

わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。(エレミヤ書 31:33)

主はあなたの状況…燃える柴や大きな声…を利用される。「いや、モーセにはそうだったかもしれない。でも、あれは旧約聖書だ。」「ヨハネにはそうだったかもしれない。でも、あれは特殊な事態だ。」そうですか？

人生に於ける究極のパターンをひとつ教えましょう。

神がモーセに言われたことはご存じですね。

幕屋の型と幕屋のすべての用具の型とを、わたしがあなたに示すのと全く同じように作らなければならない。(出エジプト記 25:9)

“同じように” = “パターン” (型)

「モーセ、お前に与えるこの地上での構図は、実際に天にあるもののパターンなのだ。だから、わたしが示すパターン通りに行いなさい。」ということです。

ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。(ヨハネ 1:14)

“住まわれた” = “TABERNACLE” (幕屋)

イエスは私たちの間で幕屋となられた。イエスは幕屋、すなわちパターンだったのです。彼は、私たちが従うべき完璧なパターンなのです。ヨハネやモーセは横に置いておいて、イエスを見るのです。

取り急ぎヨハネ 5 章をみて下さい。イエスがご自身の人生をどのように進まれたか、驚きです。ヨハネの福音書の著者は、黙示録を書いたヨハネです。

そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。子は、父がしておられることを見て行なう以外には、自分からは何事も行なうことができません。父がなさることは何でも、子も同様に行なうのです。」(ヨハネ 5:19)

イエスのなさること、彼の行い全てにおいて、私は御父を見るのです。振り返って見たヨハネのように、どうなっているのかと横道にそれて見に行ったモーセのように、私の目は御父を見据えるのです。

イエスもまた言いました。「わたしの目は父に向けられ、父が行うことのみをわたしも行う。」ものすごく徹底した生き方ではないでしょうか。「父が行うことのみを行う。」

それ以上でもなく、他にはなく、それ以下でもない。

30 節に具体的に書かれています。

わたしは、自分からは何事も行なうことができません。ただ聞くとおりにさばくのです。そして、わたしのさばきは正しいのです。私自身の望むことを求めず、わたしを遣わした方のみこころを求めるからです。(ヨハネ 5:30)

イエスが人を裁く時、頭の中で状況を判断せず、人の価値を量らず、ただ父の御心によってのみ裁くので彼の裁きは正しいのです。

例えば、人々は職場のお茶室で、或いは校内の水飲み場でよく噂話をします。「ちょっと、聞いた?」「何だって? 大変だ!」「ヤツは負け犬だ。」等々。

しかし、イエスは言います。「わたしは自分で判断しない。」

そして、わたしのさばきは正しいのです。私自身の望むことを求めず、わたしを遣わした

方のみこころを求めるからです。(ヨハネ 5:30)

「お父様、彼のことをどう思われますか？負け犬でしょうか。」「お父様、あなたの目には彼女は悪人ですか？」このように、イエスはどの状況に於いても、御父と完全な一致を保って裁くと言われました。徹底していますよね。

誰かに対して自分の感情を入れる前に、自分の基準を当てはめる前に、「この件について、先に神に聞かなければ。どうすればいいですか？」父に聞かずして、自分では判断しないし裁かない。彼や彼女について父に聞けば、必ず父は耳元で語りかけてくれるのです。神は彼らを愛しておられるから。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。(ヨハネ 3:16)

つづく